

(様式第 9)

番 号
平成 23 年 10 月 3 日

関東信越厚生局長 殿

開設者名 学校法人 日本医
理事長 赫 彰

日本医科大学付属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 の規定に基づき、平成 22 年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照（様式第 10）
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照（様式第 11）
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	73 人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
→ 別紙参照（様式第 12）
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績
→ 別紙参照（様式第 13）
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	472人	50.4人	522.4人	看護補助者	80人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	0人	0人	0人	理学療法士	8人	臨床検査技師	95人
薬剤師	51人	0人	51人	作業療法士	2人	衛生検査技師	0人
保健師	(161人)	0人	(161.0人)	視能訓練士	5人	その他	0人
助産師	17人	0人	17人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	7人
看護師	957人	2.8人	959.8人	臨床工学技士	19人	医療社会事業従事者	0人
准看護師	2人	人	2人	栄養士	3人	その他の技術員	11人
歯科衛生士	0人	人	0人	歯科技工士	0人	事務職員	153人
管理栄養士	7人	人	7人	診療放射線技師	60人	その他の職員	77人

- (注) 1 報告を行う当該年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めなくて記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 2 位を切り捨て、小数点以下 1 位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

- 8 入院患者、外来患者及び調剤の数
 歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	841 人	0 人	841 人
1日当たり平均外来患者数	2,124 人	0 人	2,124 人
1日当たり平均調剤数	10,883 剤		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数（毎日の 24 時現在の在院患者数の合計）を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	心室頻拍手術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 心室頻拍の術中マッピングおよび外科アブレーション			
医療技術名	エキシマレーザーシースを使用したリード抜去	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 ペースメーカー・ICDのリード抜去の際、レーザーを使用したリード抜去を行っている。			
医療技術名	声帯内側頭筋膜自家移植術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 声帯溝症、反回神経麻痺による音声傷害に対して行った。			
医療技術名	腹腔鏡下仙骨膣固定術	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 子宮脱などの骨盤臓器脱に対して、子宮膣部あるいは子宮断端部を、メッシュを用いて腹腔鏡下に仙骨岬角に固定し、つり上げる術式。			
医療技術名	膠原病・アレルギー疾患に対する自己骨髄幹細胞による血管新生療法	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 すでにバージャー病、ASOには「自己骨髄幹細胞による血管新生療法」は先進医療承認ですが、厚生労働省難治性疾患班会議において膠原病・アレルギー疾患に対しても適応拡大し、極めて良好な成績を上げている。			
医療技術名	DDS(Drug Delivery System)徐放化蛋白ハイドロゲルによる血管新生療法	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 2008年、内閣府スーパー医療特区採用課題「難治性疾患を標的とした細胞間シグナル伝達制御による創薬」の分担研究で実施している為、全国から患者さんが受診している。			
医療技術名	低出力対体外衝撃波による血管再生治療	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 尿路結石破砕の10分の1の出力で実施する低出力の衝撃波を用いて末梢動脈疾患(PAD)症例に実施している。			
医療技術名	難知性創傷に対するマゴットセラピー	取扱患者数	40人
当該医療技術の概要 治療抵抗性の難治性壊疽・潰瘍・壊疽に対して医療用無菌ウジを使用して治療し、良好な成績を上げている。 (有効率89.5パーセント)			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	修正型通電療法	取扱患者数	520人
当該医療技術の概要 修正型通電療法は全身麻酔下でパルス波治療器を用いて電極シールを両側額部に貼り、交流電流を 通電することで脳神経細胞を刺激し、うつ病や緊張病などの病状を改善させる治療法です。都内でも有数の治療歴があり 中高年の身体合併症のある患者さんに積極的に使用し高い改善率がみられています。			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	29人	・膿疱性乾癬	3人
・多発性硬化症	42人	・広範脊柱管狭窄症	7人
・重症筋無力症	58人	・原発性胆汁性肝硬変	36人
・全身性エリテマトーデス	74人	・重症急性膵炎	5人
・スモン	3人	・特発性大腿骨頭壊死症	22人
・再生不良性貧血	42人	・混合性結合組織病	7人
・サルコイドーシス	121人	・原発性免疫不全症候群	5人
・筋萎縮性側索硬化症	9人	・特発性間質性肺炎	30人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	91人	・網膜色素変性症	15人
・特発性血小板減少性紫斑病	67人	・プリオン病	1人
・結節性動脈周囲炎	8人	・肺動脈性肺高血圧症	0人
・潰瘍性大腸炎	97人	・神経線維腫症	4人
・大動脈炎症候群	15人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	13人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	2人
・天疱瘡	16人	・慢性血栓性肺高血圧症	0人
・脊髄小脳変性症	28人	・ライゾーム病	3人
・クローン病	43人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	34人	・脊髄性筋萎縮症	3人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	86人	・球脊髄性筋萎縮症	2人
・アミロイドーシス	6人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	12人
・後縦靭帯骨化症	12人	・肥大型心筋症	13人
・ハンチントン病	1人	・拘束型心筋症	2人
・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	20人	・ミトコンドリア病	1人
・ウェゲナー肉芽腫症	3人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	2人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	67人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	1人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	15人	・黄色靭帯骨化症	0人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	0人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	145人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・画像支援ナビゲーションによる内視鏡下鼻内副鼻腔手術	・
・乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

6 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	1ヶ月に5回程度
部 検 の 状 況	部検症例数 43 例 / 部検率 5.9%

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
新規に同定された子宮内膜症関連遺伝子の発現様式の解析	明楽 重夫	女性診療科・産科	750 万	補 委 文部科学省
新規診断マーカーCTP を用いた難治性内耳疾患の多施設検討	池園 哲郎	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,950 万	補 委 厚生労働省
リアルタイムモニター花粉数の情報のあり方の研究と舌下ペプチド・アジュバンド療法の臨床研究	大久保 公裕	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	3,900 万	補 委 厚生労働省
精神疾患の病態診断と治療評価のためのイメージングバイオマーカーの開発と臨床応用	大久保 善朗	精神神経科	3,250 万	補 委 厚生労働省
分子イメージングによる総合失調症のドーパミン神経伝達異常の解明	大久保 善朗	精神神経科	403 万	補 委 文部科学省
難治性膵がんに対する革新的膵灌流療法システムの開発	村田 智	放射線科	208 万	補 委 文部科学省
下垂体腺腫における miRNA 発現と mRNA の制御に関する研究	寺本 明	脳神経外科	377 万	補 委 文部科学省
ヒトにおける虚血プレコンディショニングの心筋保護効果の機序に関する検討	高野 仁司	一般・循環器・肝臓内科、再生医療科	117 万	補 委 文部科学省
難治性血管炎に対する新規治療法開発	高木 元	一般・循環器・肝臓内科、再生医療科	130 万	補 委 文部科学省
脳虚血後における新規脳保護薬・骨髄細胞移植併用の神経再生増強効果の研究	片山 泰朗	神経・腎臓内科	104 万	補 委 文部科学省
PETによるアデノシン受容体のドーパミン調節機構と抗パーキンソン病薬副作用の関係	三品 雅洋	神経・腎臓内科	91 万	補 委 文部科学省

小計 11 件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
軽度認知障害の原因疾患としての海馬硬化性認知症の臨床・分子病理学的研究	山崎 峰雄	神経・腎臓内科	130万	(補) 文部科学省 委
骨髄腫細胞の発現する補助刺激分子群(B7系分子など)とそのシグナル:病態への関与	田村 秀人	血液・内分泌・消化内科	91万	(補) 文部科学省 委
MRIを用いた児童思春期うつ病における脳形態に関する前方視研究	齊藤 卓弥	精神神経科	156万	(補) 文部科学省 委
ポテンシャルドナーを増やすための補助検査を用いた脳死判定に関する研究	横田 裕行	高度救命救急センター	78万	(補) 文部科学省 委
In vivo イメージングシステムを用いた膵癌実験モデルおよびその応用	内田 英二	消化器・乳腺・一般・移植外科	104万	(補) 文部科学省 委
未熟心筋に対する常温下心筋保護の研究:ミトコンドリア保護の重要性とその臨床応用	井村 肇	内分泌・心臓血管・呼吸器外科	117万	(補) 文部科学省 委
左心房容量負荷モデルにおける肺静脈隔離の心房細動発生予防効果の検討	新田 隆	内分泌・心臓血管・呼吸器外科	130万	(補) 文部科学省 委
下垂体腺腫の増殖におけるSDF-1の役割に関する分子形態学的研究	吉田 大蔵	脳神経外科	91万	(補) 文部科学省 委
麻酔薬・麻酔法による体内遺伝子、蛋白、代謝物変動の総括的検討	坂本 篤裕	麻酔科	65万	(補) 文部科学省 委
卵胞顆粒膜細胞に特異的なマイクロRNAの卵胞成熟における機能解析とその臨床応用	竹下 俊行	女性診療科・産科	130万	(補) 文部科学省 委
妊娠中の肝機能異常における自己傷害性T細胞の関与の検討	市川 雅男	女性診療科・産科	104万	(補) 文部科学省 委
上皮間葉相互作用を制御するシグナル経路におけるSox13の役割	長田 真一	皮膚科	103万	(補) 文部科学省 委

小計 12 件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
MCP-1を介した間葉系幹細胞による胃癌組織へのホーミング分子機構の解析	二神 生爾	血液・内分泌・消化内科	143万	補 委 文部科学省
シグナル情報解析を用いた肺癌分子標的治療感受性予測法の開発とイメージング	弦間 昭彦	呼吸器内科	130万	補 委 文部科学省
肺癌に対するマイクロRNAを用いた薬剤感受性予測と治療法の開発	清家 正博	呼吸器内科	78万	補 委 文部科学省
酸化ストレス応答とリン脂質酸化変性の意義—単球/マクロファージ接着亢進機序の解明	及川 眞一	血液・内分泌・消化内科	143万	補 委 文部科学省
自殺予防対策のための効果的な医学教育法の開発	伊藤 敬雄	精神神経科	143万	補 委 文部科学省
食道扁平上皮癌におけるSnoNとmiRNAに関する分子生物学的解析	宮下 正夫	消化器・乳腺・一般・移植外科	130万	補 委 文部科学省
内耳疾患診断のバイオマーカーCTP—迅速検出法の開発と臨床応用	池園 哲郎	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	143万	補 委 文部科学省
鼻アレルギー発症機序における上皮細胞の新たな役割—T細胞、樹状細胞との相互作用	Ruby Pawankar	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	91万	補 委 文部科学省
脳代謝モニタリング・網羅的脳代謝解析に基づく心肺停止蘇生後の病態及び治療の研究	恩田 秀賢	高度救命救急センター	91万	補 委 文部科学省
脳虚血後の神経細胞死と血管新生におけるCDK5活性の役割とその制御機構	永田 智香子 (仁藤智香子)	神経・腎臓内科	286万	補 委 文部科学省
ヒト人工骨髄の作成と造血幹細胞・白血病幹細胞のニッチの解析研究	植田 高弘	小児科	208万	補 委 文部科学省
悪性黒色腫形成・増殖に関わるシグナルの同定、特に紫外線誘発黒色腫形成機序の解明	船坂 陽子	皮膚科	286万	補 委 文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
電気けいれん療法前後の脳内ドーパミン受容体についての研究	西條 朋行	精神神経科	182万	(補) 文部科学省 委
神経メラニンMRIを用いた難治性うつ病のドーパミン、ノルアドレナリン機能評価研究	舘野 周	精神神経科	260万	(補) 文部科学省 委
SPECT合成3D-CT乳腺リンパ管造影によるセンチネルリンパ節生検の検証	山下 浩二	内分泌・心臓血管・呼吸器外科	234万	(補) 文部科学省 委
胎児血管特性を応用したアデノシン誘導型DESの開発	澤 倫太郎	女性診療科・産科	169万	(補) 文部科学省 委
眼科手術用灌流液への水素ガス応用の研究	高橋 浩	眼科	169万	(補) 文部科学省 委
ケロイド組織における神経原性炎症の解析	赤石 諭史	形成外科・美容外科	195万	(補) 文部科学省 委
顎骨における水平的骨増生を目指した組織工学的手法の検討	百束 比古	形成外科・美容外科	169万	(補) 文部科学省 委
急性肺損傷の治療法確立に向けた肺内水分動態と網羅的気道上皮代謝物解析に関する研究	久志本 成樹	高度救命救急センター	156万	(補) 文部科学省 委
ショック後腸管リンパ液生理活性および臓器障害に対する腸管由来アラキドン酸の関与	増野 智彦	高度救命救急センター	182万	(補) 文部科学省 委
ドライマウスによる嚥下困難感の他覚的定量評価	小野 真史	眼科	50万	(補) 文部科学省 委
成体組織由来極小胚性幹細胞様細胞の探索	水野 博司	形成外科・美容外科	140万	(補) 文部科学省 委
サブスタンスP受容体を標的とした新規アルコール依存症治療薬の探索と脳機能画像評価	大久保 善朗	精神神経科	120万	(補) 文部科学省 委

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
急性腸間膜虚血の腸管 VIABILITY 評価と救命率向上に むけた治療戦略の構築	白石 振一郎	高度救命救急 センター	130 万	(補) 文部科学省 委
側頭葉てんかんにおけるドーパ ミン受容体の変化と精神症状の 関連に関する PET 研究	一宮 哲哉	精神神経科	130 万	(補) 文部科学省 委
心房細動治療における除神経 術：心内膜下自律神経ネットワ ークの解明	坂本 俊一郎	内分泌・心臓血 管・呼吸器外科	130 万	(補) 文部科学省 委
新しい外リンパ瘻診断マーカ ーCTP の時空間的発現の検討	新藤 晋	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科	78 万	(補) 文部科学省 委
ビスフォスフォネート誘発顎骨 壊死に対する幹細胞治療の開発	江浦 重義	形成外科・ 美容外科	130 万	(補) 文部科学省 委
肺静脈隔離術後早期に出現する 心房細動に対する抗不整脈薬の 有用性の検討	林 明聡	一般・循環器・ 肝臓内科、 再生医療科	260 万	(補) 文部科学省 委
ヘモグロビークラススイッチの 解明とヘモグロビン異常症の新 しい治療戦略の基礎的研究	早川 潤	小児科	169 万	(補) 文部科学省 委
静水圧を負荷した脂肪組織由来 幹細胞による生体内軟骨再生	小川 令	形成外科・ 美容外科	247 万	(補) 文部科学省 委
脂肪組織幹細胞と高気圧酸素併 用療法による褥瘡治療研究	百束 比古	形成外科・ 美容外科	90 万	(補) 文部科学省 委
膵癌に対するMDA/IL24 を用いた新規遺伝子治療の開発	相本 隆幸	消化器・乳腺・ 一般・移植外科	130 万	(補) 文部科学省 委
抗うつ薬による脳内ノルエピネ フリントランスポート占有率 に関する PET 研究	大久保 善朗	精神神経科	403 万	(補) 財団法人先進 医薬研究復興 財団 委

小計 11 件

合計 58 件

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Neurol Med Chir	Concomitant Cranial and Lumbar Subdural Hematomas—Case Report—	Kim K	神経・腎臓内科
J Clin Neurosci	Radiological study of the sandwich method in cervical anterior fusion using autologous vertebral bone grafts	Kim K	神経・腎臓内科
臨床と免疫	活動性 IgA 腎症に対する扁桃摘出後メチルプレドニゾンパルスとミゾリビン併用療法—臨床的寛解率と腎機能の検討—	金子 朋広	神経・腎臓内科
PLoS One	Adenosine A _{2A} Receptors Measured with [¹¹ C] TMSX PET in the Striata of Parkinson's Disease Patients	Mishina M	神経・腎臓内科
Interventional Neuroradiology	Recovery of Cerebrovascular Reserves after Stenting for Symptomatic Carotid Artery Stenosis	Abe A	神経・腎臓内科
Int J nephrol Urol	Selective inhibition of alfa-galactosidase A with antisense oligodeoxynucleotide in mesangial cells:A renal cellular model for Fabry disease.	Utsumi K	神経・腎臓内科
J Nippon Med Sch.	" Maltese crosses" in fabry disease	Utsumi K	神経・腎臓内科
J Nippon Med Sch.	Clinical feature of AL amyloidosis diagnosed via renal biopsy, and response to treatment	Fukuda K	神経・腎臓内科
Clin Exp Nephrol	Methylprednisolone pulse therapy combined with mizoribine following tonsillectomy for immunoglobulin A nephropathy: clinical remission rate, steroid sparing effect, and maintenance of renal function	Kaneko T	神経・腎臓内科
Pathol Int.	Renal thrombotic microangiopathy associated with chronic humoral graft versus host disease after hematopoietic stem cell transplantation.	Katsumata T	神経・腎臓内科

小計 10 件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Am J Pathol.	Statin attenuates experimental anti-glomerular basement membrane glomerulonephritis together with the augmentation of alternatively activated macrophages.	Fujita E	神経・腎臓内科
Lab Invest.	Inhibition of matrix metalloproteinases reduces ischemia-reperfusion acute kidney injury	Kunugi S	神経・腎臓内科
lab Invest.	Inhibition of capillary repair in proliferative glomerulonephritis results in persistent glomerular inflammation with glomerular sclerosis	Masuda Y	神経・腎臓内科
Am J Physiol Renal Physiol.	ANG II receptor blockade enhances anti-inflammatory macrophages in anti-glomerular basement membrane glomerulonephritis	Aki K	神経・腎臓内科
Neurol Med Chir	Selective Posterior Decompression of the Cervical Spine	Kim K	神経・腎臓内科
Mov Disord	Abnormal cardiac [¹²³ I]-Meta-Iodobenzylguanidine Uptake in Multiple System Atrophy	Nagayama H	神経・腎臓内科
J Stroke Cerebrovasc Dis.	Early depressive symptoms after ischemic stroke are associated with a left lenticulocapsular area lesion	Nishiyama Y	神経・腎臓内科
J Neurol Sci.	Asymmetric dimethylarginine (ADMA) as a possible risk factor for ischemic stroke	Nishiyama Y	神経・腎臓内科
J Atheroscler Thromb.	Statin Treatment Decreased Serum Asymmetric Dimethylarginine (ADMA) Levels in Ischemic Stroke Patients	Nishiyama Y	神経・腎臓内科
J Nippon Med Sch	Neuroprotective Effect of an Antioxidant in Ischemic Stroke: Involvement of Neuronal Death Signaling and Blood-brain Barrier Disruption	Nito C	神経・腎臓内科
The Lancet Neurology	Cilostazol for prevention of secondary stroke (CSPS2): an aspirin-controlled, double-blind, randomised non-inferiority trial	Shinohara Y	神経・腎臓内科

小計 11 件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Nippon med Sch.	A comparative study of sterility levels in continuous ambulatory peritoneal dialysis system	Saito-Sabine K	神経・腎臓内科
The Journal of ECT	Marked improvement of psychotic symptoms after electroconvulsive therapy in Parkinson disease	上田 諭	精神神経科
総合病院精神医学	ECTにおける有効な発作誘発の augmentation	上田 諭	精神神経科
総合病院精神医学	【ECTにおける地域連携】ECTと地域連携首都圏でのネットワークの立ち上げと現状	鮫島 達夫	精神神経科
International Journal of Neuropsychopharmacology	Effect of electroconvulsive therapy on 5-HT1A receptor binding patients with depression:a PET study with [11C]WAY 100635	西條 朋行	精神神経科
Journal of Clinical Psychiatry	Electroconvulsive therapy decreased dopamine D2 receptor binding in the anterior cingulate inpatients with depression:a controlled study using positron emission tomography with radioligand [11C]FLB 457	西條 朋行	精神神経科
Psychopharmacology	Norepinephrine transporter occupancy by antidepressant in human brain using positron emission tomography with (S, S)-[(18 F)]FMeMER-D (2)	関根 瑞保	精神神経科
リウマチ科	「MTX以外の非生物学的抗リウマチ薬の位置づけ・使い方」金製剤	中村 洋	リウマチ科
Carbohydrate polymers	Application of glucosamine on human disease-Osteoarthritis	Nakamura Hiroshi	リウマチ科
関節外科	変形性膝関節症の治療戦略サプリメント	中村 洋	リウマチ科
日整会誌	診療ガイドラインからみたアキレス腱断裂の診断・治療	伊藤 博元	整形外科

小計 11 件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日整会誌	運動器不安定とロコモティブシンドローム	伊藤 博元	整形外科
からだの科学	物理療法	宮本 雅史	整形外科
日本関節病学会誌	特発性大腿骨顆部骨壊死に対する保存療法例の検討	尾崎 大也	整形外科
日手会誌	尺側手根中手関節脱臼骨折の治療成績と解剖学的検討	南野 光彦	整形外科
整形・災害外科	関節造影によるリスフランの損傷の診断	青木 孝文	整形外科
肩関節	広範囲断裂修復術後における再断裂予測因子の検討	橋口 宏	整形外科
骨折	中手骨頸部骨折に対する low-profile plate system の治療経験	南野 光彦	整形外科
Allergol Int.	Efficacy of Epinastine Hydrochloride for Antigen-provoked Nasal Symptoms in Subjects with Orchard Grass Pollinosis.	Okubo K.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科
Expert Opin Investig Drugs.	Clinical pharmacology study of the corticosteroid nasal spray dexamethasone cipeclate (NS-126): examination of the durability of efficacy in the nasal induction test.	Okubo K.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科
アレルギー	スギ花粉症有病率の地域差について	大久保 公裕	耳鼻咽喉科・頭頸部外科
アレルギー・免疫	スギ花粉症患者の QOL と睡眠障害	大久保 公裕	耳鼻咽喉科・頭頸部外科
アレルギー・免疫	2009 年におけるスギ花粉症に対する第 2 世代抗ヒスタミン薬による初期療法の有用性 - JRQLQ No1 を用いた QOL の評価	大久保 公裕	耳鼻咽喉科・頭頸部外科

小計 12 件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
耳鼻臨床	鼻噴霧用ステロイド薬デキサメタゾンシペシル酸エステル (NS-126P) の通年性アレルギー性鼻炎における用法用量試験	大久保 公裕	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科
Auris Nasus Larynx	Levocabastine nasal spray significantly improves perennial allergic rhinitis: A single blind placebo-controlled study.	Okubo K.	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科
アレルギーの臨床	乳酸菌 Lactobacillus gasseri OLL2809 のスギ花粉症改善効果	大久保 公裕	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科
アレルギー	専門医のためのアレルギー学講座 -アレルギー性鼻炎-	大久保 公裕	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科
アレルギー・免疫	高齢者のアレルギー性鼻炎	大久保 公裕	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科
Medicina	舌下免疫療法	大久保 公裕	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科
CMRO	Olopatadine hydrochloride in children: efficacy and safety for perennial allergic rhinitis	Okubo K.	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科
Clin Exp Allergy rev	Prevalence of Japanese cedar pollinosis in Tokyo: a survey conducted by Tokyo metropolitan government	Okubo K.	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科
J Nippon Med Sch	Allergen Immunotherapy for allergic rhinitis	Okubo K.	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科
救急医学	熱傷後瘢痕拘縮の予防と治療	百束 比古	形成外科・ 美容外科
臨床皮膚科増刊号	フィラー、金、ヒアルロン酸によるトラブル	百束 比古	形成外科・ 美容外科
日医大医学会誌	乳房増大術後後遺症 シリコンと炭化水素系物質の重複注入例の画像診断	百束 比古	形成外科・ 美容外科

小計 12 件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
オルソタイムス	瘢痕・瘢痕拘縮と皮膚潰瘍（金属プレートの露出など）	百束 比古	形成外科・美容外科
瘢痕・ケロイド治療ジャーナル	ヒアルロン酸による瘢痕治療	青木 律	形成外科・美容外科
瘢痕・ケロイド治療ジャーナル	ケロイド・肥厚性瘢痕の特徴と問題点	小川 令	形成外科・美容外科
瘢痕・ケロイド治療ジャーナル	新しい皮膚切開線の提唱ーケロイド伸展ベクトルの分析ー	赤石 論史	形成外科・美容外科
瘢痕・ケロイド治療ジャーナル	耳介ケロイドに対するくり抜き法の実際	土肥 輝之	形成外科・美容外科
瘢痕・ケロイド治療ジャーナル	両側耳垂ピアス後に発症した片側耳垂ピアスケロイドの検討ー患側と健側の比較検討ー	百束 比古	形成外科・美容外科
瘢痕・ケロイド治療ジャーナル	ケロイド切除後の新しい縫合法ーFascial suture techniqueー	赤石 論史	形成外科・美容外科
瘢痕・ケロイド治療ジャーナル	顔面熱傷後の鼻翼部瘢痕拘縮に対する自家真皮移植と二期的全層植皮による治療経験	高見 佳宏	形成外科・美容外科
瘢痕・ケロイド治療ジャーナル	ケロイドに対する皮弁術の有用性と問題点	青木 雅代	形成外科・美容外科
瘢痕・ケロイド治療ジャーナル	ケロイドが発生しやすい部位の検討	大森 康高	形成外科・美容外科
瘢痕・ケロイド治療ジャーナル	産婦人科手術後1ヶ月目の瘢痕評価・分類の試みとそれに基づく肥厚性瘢痕およびケロイド発生率の検討	百束 比古	形成外科・美容外科
Monthly Book Derma.	注入治療における合併症とその対策	佐藤 和夫	形成外科・美容外科
PEPARS	熱傷眼瞼の再建	百束 比古	形成外科・美容外科

小計 13 件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
創傷	“プロペラ皮弁法”の術前穿通枝評価における Multidetector-row CT (MDCT) の有用性	小野 真平	形成外科・美容外科
医療判例解説	指標事例5「腓骨切除と歩行困難は無関係と思われるが、障害が生じる可能性は説明しておいた方が良いと思われる」	百束 比古	形成外科・美容外科
J of NMS	Merkel Cell Carcinoma on the Upper Lip of a 100-year-old Woman.	Kitta E	形成外科・美容外科
Int J Gen Med	Optimal management of carpal tunnel syndrome- the most current treatment options and trends -.	Ono S	形成外科・美容外科
J Plast Reconstr Aesthet Surg.	Multidetector-row computed tomography (MDCT) analysis of the supra-fascial perforator directionality (SPD) of the occipital artery perforator (OAP).	Ono S	形成外科・美容外科
Plast Reconstr Surg.	Complications after polyacrylamide hydrogel injection for soft-tissue augmentation.	Ono S	形成外科・美容外科
J. Plast Reconstr. Aesthet Surg	Therapeutic angiogenesis by autologous bone marrow cell implantation together with allogeneic cultured dermal substitute for intractable ulcers in critical limb ischaemia,	Mizuno H	形成外科・美容外科
Plast Reconstr Surg.	Application of Multidetector-row Computed Tomography in Propeller Flap Planning.	Ono S	形成外科・美容外科
Plast Reconstr Surg.	The Tokyo” Consensus on Propeller Flaps.”	Ogawa R	形成外科・美容外科
Plast Reconstr Surg.	The Tensile reduction effects of silicone gel sheeting.	Akaishi S	形成外科・美容外科
Curr Stem Cell Res Ther	Adipose-Derived Stem Cells.	Ogawa R	形成外科・美容外科
Curr Stem Cell Res Ther	Cartilage Regeneration Using Adipose-Derived Stem Cells.	Ogawa R	形成外科・美容外科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Plast Reconstr Surg.	The Most Current Algorithms for Treatment and Prevention of Hypertrophic Scars and Keloids.	Ogawa R	形成外科・美容外科
Plast Reconstr Surg	Fat Grafting for The Treatment of Keloids and Hypertrophic Scars - Author Reply.	Ogawa R	形成外科・美容外科
Plast Reconstr Surg	Indications of Cryosurgery for Keloids and Hypertrophic Scars - Author Reply.	Ogawa R	形成外科・美容外科
Ann Plast Surg	Visual and pathologic analyses of keloid growth patterns.	Akaishi S	形成外科・美容外科
Plast Reconstr Surg.	The reconstructive matrix: a new paradigm in reconstructive plastic surgery.	Ogawa R	形成外科・美容外科
FASEB J.	Mechanotransduction in bone repair and regeneration.	Ogawa R	形成外科・美容外科
Ann Plast Surg.	Effect of mesenchymal stem cells on skin graft to flap prefabrication: an experimental study.	Ogawa R	形成外科・美容外科
Plast Reconstr Surg.	Analysis of nerve and neuropeptide patterns in vacuum-assisted closure-treated diabetic murine wounds.	Ogawa R	形成外科・美容外科
Eplasty.	Analysis of 22 posterior ulnar recurrent artery perforator flaps: a type of proximal ulnar perforator flap.	Hyakusoku H	形成外科・美容外科
Plast Reconstr Surg.	Mechanical receptor-related mechanisms in scar management: a review and hypothesis.	Akaishi S	形成外科・美容外科
Pediatr Res.	Hematopoiesis in regenerated bone marrow within hydroxyapatite scaffold.	Ogawa R	形成外科・美容外科
Wound Repair Regen.	Hematopoiesis in regenerated bone marrow within hydroxyapatite scaffold.	Ogawa R	形成外科・美容外科
Burns	The use of Japanese "kenzan" flower holders to create scar-less drainage holes in skin grafts.	Murakami M	形成外科・美容外科

小計 13 件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Nippon Med Sch	Microscope-assisted reduction clitoroplasty used to treat two patients with clitoromegaly.	Murakami M	形成外科・美容外科
Eplasty	The effect of W-plasty on cheek rotation flap.	Murakami M	形成外科・美容外科
麻酔科学レビュー 2010：最新主要文献集	第4章 心・血管作動薬	坂本 篤裕	麻酔科
循環器病学－基礎と臨床－	第12章 麻酔、外科と心臓；心臓手術を受ける高リスク患者の術前評価および手術管理	坂本 篤裕	麻酔科
麻酔科学レビュー 2010：最新主要文献集	麻酔科医と救急医療	竹田 晋浩	麻酔科
人工呼吸器関連肺炎のすべて	非侵襲的陽圧換気	中里 桂子	麻酔科
Noninvasive mechanical ventilation	Use of dexmedetomidine in patients with noninvasive ventilation	Takeda S	麻酔科
呼吸療法における不思議50	ALI/ARDSの診断基準はなぜ変わらないのか？	竹田 晋浩	麻酔科
臨床麻酔「臨時増刊号」	カテコラミン使用のこつ	鈴木 規仁	麻酔科
麻酔科研修ノート	危機管理 10 心停止（心静止、PEA、徐脈性不整脈）	本郷 卓	麻酔科
Cardiovascular Anesthesia	僧帽弁置換術後左室破裂をきたし救命し得た2症例	古市 結富子	麻酔科
Molecular Pain	A local anesthetic, ropivacaine, suppresses activated microglia via a nerve growth factor-dependent mechanism and astrocytes via a nerve growth factor-independent mechanism in neuropathic pain	Toda S	麻酔科
Biomedical Research	Changes in neuropeptide Y gene expression in the spinal cord of chronic constrictive injury model rats after electroconvulsive stimulation	Okabe T	麻酔科

小計 13 件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Neuroscience Letters	The general anesthetic sevoflurane affects the expression of clock gene mPer2 accompanying the change of NAD ⁺ level in the suprachiasmatic nucleus of mice	Ohe Y	麻酔科
Biomedical Research	Propofol anaesthesia alters the cerebral proteome differently from sevoflurane anaesthesia	Tsuboko Y	麻酔科
Journal of Nippon Medical School	A case of cancer pain management by long-term intrathecal PCA	Sato C	麻酔科
Journal of Nippon Medical School	Atrial natriuretic peptide alleviates cardiovascular and metabolic disorders in a rat endotoxemia model: a possible role for its anti-inflammatory properties	Mori M	麻酔科
PLoS One	Pattern recognition analysis of proton nuclear magnetic resonance spectra of brain tissue extracts from rats anesthetized with propofol or isoflurane	Kawaguchi H	麻酔科
Journal of Anesthesia	Noninvasive positive pressure ventilation in patients with perioperative negative pressure pulmonary edema	Furuichi M	麻酔科
日集中医誌	わが国集中治療室の現状調査—松田班調査結果報告—	西村 匡司	麻酔科
Intensive Care Med	Hypercytokinemia with 2009 pandemic H1N1 (pH1N1) influenza successfully treated with polymyxin B-immobilized fiber column hemoperfusion	Takeda S	麻酔科
Anet	新型インフルエンザ 2009 influenza A (H1N1) による重症呼吸不全	竹田 晋浩	麻酔科
呼吸と循環	ALI/ARDS に対するステロイド治療。ARDS/ALI 治療の新展開	竹田 晋浩	麻酔科
ラウンドテーブルディスカッション—massimo Antonelli 先生を囲んで—	NPPV 療法	竹田 晋浩	麻酔科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
人工呼吸	体外式陽陰圧式人工呼吸:急性呼吸不全	三井 誠司	麻酔科
日本医師会雑誌	特集:新型インフルエンザ2009年パンデミックから何を学ぶか。劇症肺炎への対応—人工呼吸管理から脱出した国内症例と海外におけるECMO症例	竹田 晋浩	麻酔科
救急医学 2010年9月臨時増刊号	非侵襲的人工呼吸法のメカニズムと臨床適応。呼吸管理プラクティカルガイド	竹田 晋浩	麻酔科
Intensivist2010	特集:急性心不全。急性心不全における補助換気:常に非侵襲的換気(NIV)を第一選択とする時代に入ったのか?	竹田 晋浩	麻酔科
ナーシングケア Q&A	肺水腫患者の人工呼吸法のケアを教えてください。人工呼吸器とケア Q&A	竹田 晋浩	麻酔科
日本在宅医学会雑誌 2011	ICUで行われている急性期NPPV呼吸ケア。NPPV呼吸ケア	竹田 晋浩	麻酔科
Anet	パルスCOオキシメトリを用いた術中循環管理	中西 一浩	麻酔科
British Journal of Pharmacology	Inhibition of fatty acid amide hydrolase unmasks CB(1) receptor and TRPV1 channel-mediated modulation of glutamatergic synaptic transmission in midbrain periaqueductal grey.	Kawahara H	麻酔科
小児看護	小児の脳死と臓器移植にかかる諸問題	荒木 尚	高度救命救急センター
病院	秋葉原無差別殺傷事件	布施 明	高度救命救急センター
家の光	熱中症の予防術	横田 裕行	高度救命救急センター
消化器外科	胸腔ドレーン挿入	辻井 厚子	高度救命救急センター
日本外傷学会雑誌	外傷診療における Helicopter emergency medical service (HEMS) の役割	松本 尚	高度救命救急センター

小計 13 件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本外傷学会雑誌	外傷患者に対する輸血療法-Gift of Life or Not-	増野 智彦	高度救命救急センター
日本外傷学会雑誌	「日本外傷学会臓器損傷分類 2008」公表に際して-「日本外傷学会臓器損傷分類 2008」記載に関する共通事項-肝損傷分類 2008 (日本外傷学会) -脾損傷分類 2008 (日本外傷学会) -膵損傷分類 2008 (日本外傷学会) -腎損傷分類 2008 (日本外傷学会) -消化管損傷分類 2008 (日本外傷学会) -間膜・小網・大網損傷分類 2008 (日本外傷学会) -胸郭損傷分類 2008 (日本外傷学会) -気管・気管支損傷分類 2008 (日本外傷学会) -肺損傷分類 2008 (日本外傷学会) -横隔膜損傷分類 2008 (日本外傷学会) -心損傷分類 2008 (日本外傷学会) -大血管損傷分類 2008 (日本外傷学会) -骨盤損傷分類 2008 (日本外傷学会) -Appendix および損傷部の区域一覧-臓器損傷分類 2008 (日本外傷学会) -覧	横田 裕行	高度救命救急センター
Brain and Nerve	救急医の立場から-The Point of the Revised Organ Transplantation Act in Japan from the View of Emergency Doctors-	横田 裕行	高度救命救急センター
日本救急医学会雑誌	どう捉える敗血症、いかに対処するエンドトキシン	久志本 成樹	高度救命救急センター
日本医科大学医学会雑誌	付属病院臨床研修センターの設置とその役割	横田 裕行	高度救命救急センター
BRAIN and NERVE	特集：改正臓器移植法の問題点とその対応：救急医の立場から (The Points of the Revised Organ Transplantation Act in Japan from the View of Emergency Doctors)	横田 裕行	高度救命救急センター
Neurologia medico-chirurgica	Clinical Analysis of Spinal Cord Injury With or Without Cervical Ossification of the Posterior Longitudinal Ligament, Spondylosis, and Canal Stenosis in Elderly Head Injury Patients.	Ryuta Nakae	高度救命救急センター
脳死・脳蘇生	脳死の診断と有力な補助検査	横田 裕行	高度救命救急センター

小計 8 件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本外傷学会雑誌	「日本外傷学会臓器損傷分類 2008」公表に際してー「日本外傷学会臓器損傷分類 2008」記載に関する共通事項ー肝損傷分類 2008（日本外傷学会）ー脾損傷分類 2008（日本外傷学会）ー膝損傷分類 2008（日本外傷学会）ー腎損傷分類 2008（日本外傷学会）ー消化管損傷分類 2008（日本外傷学会）ー間膜・小網・大網損傷分類 2008（日本外傷学会）ー胸郭損傷分類 2008（日本外傷学会）ー気管・気管支損傷分類 2008（日本外傷学会）ー肺損傷分類 2008（日本外傷学会）ー横隔膜損傷分類 2008（日本外傷学会）ー心損傷分類 2008（日本外傷学会）ー大血管損傷分類 2008（日本外傷学会）ー骨盤損傷分類 2008（日本外傷学会）ーAppendix および損傷部の区域一覧ー臓器損傷分類 2008（日本外傷学会）一覧ー日本外傷学会臓器損傷分類 2008 引用のお知らせー	横田 裕行	高度救命救急センター
脳死・脳蘇生	脳死の診断と有力な補助検査	横田 裕行	高度救命救急センター
Neurol Med Chir (Tokyo).	Cerebral vasospasms after intraventricular hemorrhage from an arteriovenous malformation: case report.	Yokobori Shoji	高度救命救急センター
救急医学	脳死判定	横田 裕行	高度救命救急センター
日本臨床	臓器提供施設の問題点	横田 裕行	高度救命救急センター
Emergency Care	救急治療における終末期ガイドライン	横田 裕行	高度救命救急センター
Emergency Care	改正臓器移植法のポイント	横田 裕行	高度救命救急センター
神経外傷	外傷医と脳神経外科医による頭部外傷分類	横田 裕行	高度救命救急センター
日本腹部救急医学会雑誌	一期的閉腹不適応症例に対する enterocutaneous fistula の予防と早期筋膜閉鎖のための open abdomen の管理法	久志本 成樹	高度救命救急センター
救急医療ジャーナル	「しろ」と「あか」、そして日本人	横田 裕行	高度救命救急センター

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
救急医学	頭部外傷診療	横田 裕行	高度救命救急センター
救急医学	頭部外傷分類(日本外傷学会/日本脳神経外傷学会)	荒木 尚	高度救命救急センター
総合臨床	救急医療施設と改正臓器移植法	横田 裕行	高度救命救急センター
川口医師会会報	地域における救急医療の現状と課題	横田 裕行	高度救命救急センター
日本外傷学会雑誌	外傷医と脳神経外科医による頭部外傷分類	横田 裕行	高度救命救急センター
日本外傷学会雑誌	Damage control surgery を要する重症肝損傷治療における IVR の重要性	久志本 成樹	高度救命救急センター
日本医師会雑誌	臓器提供側からみた改正臓器移植法の課題と解決に向けて	横田 裕行	高度救命救急センター
日本医師会雑誌	救急医療・脳神経外科施設からみた脳死下臓器提供の現況と課題	横田 裕行	高度救命救急センター
室医会報(室蘭市医師会会報)	脳卒中患者の対応と治療～病院前から救急初療室へ～	横田 裕行	高度救命救急センター
Neurol Med Chir (Tokyo)	Clinical analysis of spinal cord injury with or without cervical ossification of the posterior longitudinal ligament, spondylosis, and canal stenosis in elderly head injury patients	Nakae R	高度救命救急センター
救急医学	腹部外傷を含む多発外傷の治療指針	雨森 俊介	高度救命救急センター
救急医学	爆傷頭部外傷の位置づけ	布施 明	高度救命救急センター

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J. Nippon Med Sch	An analysis of Japan Disaster Medical Assistance Team (J-DMAT) deployments in comparison with those of J-DMAT's counterpart in the United States (US-DMAT)	Fuse A	高度救命救急センター
近代消防	NBC (CBRNE)	布施 明	高度救命救急センター
近代消防	Mass Gathering 救急・集団災害医療	布施 明	高度救命救急センター
J. J. Disast. Med.	Medical regulation at sea or in port	Fuse A	高度救命救急センター
近代消防	AED+BLS	布施 明	高度救命救急センター
近代消防	PSLS	布施 明	高度救命救急センター
週刊医学会新聞	臓器移植法改正で医療現場はどうかわるのか	横田 裕行	高度救命救急センター
日本医師会雑誌	救急医療・脳神経外科施設からみた脳死下臓器提供の現状と課題	横田 裕行	高度救命救急センター
Journal of Nippon Medical School	Postoperative Course after Simple Ligation for Superior Mesenteric Vein Injury Caused by Blunt Abdominal Trauma	Masato M	高度救命救急センター
Journal of Pharmacology and Experimental Therapeutics	Metformin, an anti-diabetic agent, suppresses the production of tumor necrosis factor and tissue factor by inhibiting early growth response factor-1 expression in human monocytes in vitro	Arai M	高度救命救急センター
Monthly Book Orthopaedics	骨盤骨折の初期治療	大泉 旭	高度救命救急センター
腫瘍内科	稀少がんの臨床 10) メルケル細胞がん	野呂 佐知子	皮膚科

小計 12 件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Aesthetic Dermatology	1064nm Nd:YAG レーザーによる顔面および下肢の皮膚血管拡張症の治療効果	加藤 篤衛	皮膚科
Journal of dermatology	Clinicopathological significance of sentinel node biopsy in Japanese patients with cutaneous malignant melanoma	Sachiko Noro	皮膚科
腫瘍内科	稀少がんの臨床 10) メルケル細胞がん	野呂 佐知子	皮膚科
Ann Thorac Cardiovasc Surg	Surgical treatment of metachronous non-small cell lung cancer	Haraguchi S	内分泌・心臓血管・呼吸器外科
Oncol Rep	Inhibition of activated phosphatidylinositol 3-kinase/AKT pathway in malignant pleural mesothelioma leads to G1 cell cycle arrest	Mikami I	内分泌・心臓血管・呼吸器外科
J Cardiovasc Electrophysiol	Electroanatomical Mapping-Guided Endocardial and Epicardial Ablation of Sustained Ventricular Tachycardia Originating From Alcohol Septal Ablation-Induced Scar in a Patient With Hypertrophic	Murata H	内分泌・心臓血管・呼吸器外科
General Thoracic and Cardiovascular Surgery	Serial Changes in Epicardial Electrograms During and After a Coronary Artery Occlusion	Fujimatsu T	内分泌・心臓血管・呼吸器外科
J Cardiovasc Electrophysiol	Electroanatomical Mapping-Guided Endocardial and Epicardial Ablation of Sustained Ventricular Tachycardia Originating From Alcohol Septal Ablation-Induced Scar in a Patient With Hypertrophic Obstructive Cardiomyopathy	Murata H	内分泌・心臓血管・呼吸器外科
Innovations	Surgical ablation for atrial fibrillation in cardiac surgery: A consensus statement of the international society of minimally invasive cardiothoracic surgery (ISMICS) 2009	Nitta T	内分泌・心臓血管・呼吸器外科
J Nippon Med Sch	A training session in a clinical simulation laboratory for the acquisition of clinical skills by newly recruited medical interns.	Nitta T	内分泌・心臓血管・呼吸器外科

小計 10 件

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
胸部外科	橈骨動脈グラフト採取のコツ	落 雅美	内分泌・心臓血管・呼吸器外科
循環器専門医	左冠動脈主幹部病変および重症3枝病変に対する治療法の選択:冠動脈バイパス術の妥当性	落 雅美	内分泌・心臓血管・呼吸器外科
J Cardiol Jpn Ed	私の考えるPCIとCABGの境界:Electrical stormを発症した左冠動脈主幹部病変を有する下壁梗塞例に対して行った4枝off-pumpCABG	落 雅美	内分泌・心臓血管・呼吸器外科
Interactive Cardi	Effect of a neutrophil elastase inhibitor on acute lung injury after cardiopulmonary bypass	Fujii M	内分泌・心臓血管・呼吸器外科
日本外科感染症	冠動脈バイパス術後の胸骨正中創感染に対する予防策	藤井 正大	内分泌・心臓血管・呼吸器外科
Circ J	Guidelines for diagnosis and treatment of patients with vasospastic angina (coronary spastic angina) (JCS 2008)	Mizuno K	一般・循環器・肝臓内科・再生医療科
Int Heart J	Optical coherence tomography findings in a case of acute coronary syndrome caused by coronary vasospasm	Kobayashi N	一般・循環器・肝臓内科・再生医療科
Am Heart J	Acute decompensated heart failure syndromes (ATTEND) registry. A prospective observational multicenter cohort study: rationale, design, and preliminary data	Sato N	一般・循環器・肝臓内科・再生医療科
J of Cardiol	N-terminal pro-BNP is a novel biomarker for integrated cardio-renal burden and early risk stratification in patients admitted for cardiac emergency	Yamashita T	一般・循環器・肝臓内科・再生医療科
J of Cardiol	Efficacy and safety of nicorandil therapy in patients with acute heart failure	Shirakabe A	一般・循環器・肝臓内科・再生医療科
JACC	Neovascular microchannels in sirolimus-eluting stent occlusion at late phase	Takano M	一般・循環器・肝臓内科・再生医療科
Int Heart J	Angioscopic study of silent plaque disruption in nonischemic related coronary artery in patients with stable ischemic heart disease	Wang Z	一般・循環器・肝臓内科・再生医療科

雜誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Int Heart J	Clinical significance of matrix metalloproteinase (MMP)-2 in patients with acute heart failure	Shirakabe A	一般・循環器・ 肝臓内科・ 再生医療科
Circ J	A typical exercise stress myocardial perfusion SPECT imaging in a patient with effort angina pectoris	Otuka T	一般・循環器・ 肝臓内科・ 再生医療科
J of Cardiol	Predicting the success of noninvasive positive pressure ventilation in emergency room for patients with acute heart failure	Shirakabe A	一般・循環器・ 肝臓内科・ 再生医療科
J Nippon Med Sch	Variant angina and coronary artery spasm: The clinical spectrum pathophysiology and management	Kusama Y	一般・循環器・ 肝臓内科・ 再生医療科
Hypertens Res	Effects of long-term treatment for obstructive sleep apnea on pulse wave velocity	Saito T	一般・循環器・ 肝臓内科・ 再生医療科
Am J Med Sci	Coincidence multiple endocrine neoplasm II A with acromegaly	Saito T	一般・循環器・ 肝臓内科・ 再生医療科
J Card Fail	Upregulation of monocyte proinflammatory cytokine production by C-reactive protein is significantly related to ongoing myocardial damage and future cardiac events in patients with chronic heart failure	Nakagomi A	一般・循環器・ 肝臓内科・ 再生医療科
J Cardiol	Elevated peripheral blood mononuclear cell count is an independent predictor of left ventricular remodeling in patients with acute myocardial infarction	Aoki S	一般・循環器・ 肝臓内科・ 再生医療科
The Annals of Vascular Diseases	Prediction of Limb Salvage after Therapeutic Angiogenesis by Autologous Bone Marrow Cell Implantation in Patients with Critical Limb Ischemia	Tara S	一般・循環器・ 肝臓内科・ 再生医療科
J Cardiol	Longitudinal Doppler strain measurement for assessment of damaged and/or hibernating myocardium by dobutamine stress echocardiography in patients with old myocardial infarction	Fujimoto H	一般・循環器・ 肝臓内科・ 再生医療科
J Echocardiography	Idiopathic internal jugular vein thrombosis in a patient with severe dizziness	Honma H	一般・循環器・ 肝臓内科・ 再生医療科

雜誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Gastroenterol	Measurement of intrahepatic pressure during radiofrequency ablation in porcine liver	Kawamoto C	一般・循環器・ 肝臓内科・ 再生医療科
Int J of Cardiol	Impact of small thrombus formation bare-metal in restenotic bare-metal stent lesions associated with acute coronary syndrome :Identification by optical coherence tomography	Yamamoto M	一般・循環器・ 肝臓内科・ 再生医療科
Int J of Cardiol	Comparative angioscopic evaluation of neointimal coverage and thrombus between TAXUS-Epress and TAXUS-Liverte stents: is the stent platform type associated with the vascular response?	Yamamoto M	一般・循環器・ 肝臓内科・ 再生医療科
Int J of Cardiol	The effects of drug-eluting stent polymer on measurement of strut thickness by optical coherence tomography: in-vitro comparison with bare-metal stent	Mizuno M	一般・循環器・ 肝臓内科・ 再生医療科
Circ Cardiovasc Intervent	Late vascular responses from 2 to 4 years After implantation of sirolimus-eluting stents : Serial observations by intracoronary optical coherence tomography	Takano M	一般・循環器・ 肝臓内科・ 再生医療科
Int J of Cardiol	Optical coherence tomography analysis for restenosis of drug-eluting stents	Yamamoto M	一般・循環器・ 肝臓内科・ 再生医療科
Clinical Cardiology	Thrombus in sirolimus-eluting stent identified by optical coherence tomography	Takano M	一般・循環器・ 肝臓内科・ 再生医療科
J of Cardiol Cases	Recurrent very late thrombosis of drug-eluting stent: optical coherence tomography findings	Kobayashi N	一般・循環器・ 肝臓内科・ 再生医療科
Int J of Cardiol	Optical Coherence tomography after new scoring balloon angioplasty for in-stent restenosis and de novo coronary lesion	Takano M	一般・循環器・ 肝臓内科・ 再生医療科
Europace (E-Pub)	Randomized trial of angiotensin II-receptor blocker vs. dihydropyridine calcium channel blocker in the treatment of paroxysmal atrial fibrillation with hypertension (J- RHYTHM II Study).	Yamashita T	一般・循環器・ 肝臓内科・ 再生医療科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Circ J	V-shaped trough in autonomic activity is a possible precursor of life-threatening cardiac events	Osaka M	一般・循環器・ 肝臓内科・ 再生医療科
Pacing Clin Electrophysiol (E-Pub)	Proarrhythmic ECG deterioration caused by myocardial ischemia of the conus branch artery in patients with a Brugada ECG pattern	Ogano M	一般・循環器・ 肝臓内科・ 再生医療科
J Nippon Med Sch	Clinical significance of synthesized posterior/right-sided chest lead electrocardiograms in patients with acute chest pain	Katoh T	一般・循環器・ 肝臓内科・ 再生医療科
Intern Med	Successful blood pressure control with additive administration of eplerenone an aldosterone receptor blocker in a patient with bilateral renovascular hypertension treated with angioplasty	Ibuki C	一般・循環器・ 肝臓内科・ 再生医療科
Int Heart J	Successful blood pressure control with additive administration of eplerenone an aldosterone receptor blocker in a patient with bilateral renovascular hypertension treated with angioplasty	Hosokawa Y	一般・循環器・ 肝臓内科・ 再生医療科
Int Heart J	Impact of statin therapy on renal function and long term prognosis in acute coronary syndrome patients with chronic kidney disease	Shibu T	一般・循環器・ 肝臓内科・ 再生医療科

小計 6 件

合計 222 件

(様式第 12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	院長 福永 慶隆
管理担当者氏名	各部署長

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		各部署	<ul style="list-style-type: none"> 各年度毎、各月毎に分類 病歴番号による分類等
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	庶務課	<ul style="list-style-type: none"> 各年度毎、各月毎に分類
	高度の医療の提供の実績	医事課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	庶務課	
	高度の医療の研修の実績 閲覧実績	臨床研修センター 庶務課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医療連携室	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	庶務課 薬剤部	
第規一則号第一に掲げる十の十一の第一項の各号及び第九の二十三の第一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理部	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全管理部	
当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	患者相談窓口		

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	感染制御部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	ME部
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME部
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME部		
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME部		

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	福永 慶隆
閲覧担当者氏名	小林 義紀
閲覧の求めに応じる場所	閲覧室

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	3 件
閲覧者別	医師	延 件
	歯科医師	延 件
	国	延 1 件
	地方公共団体	延 2 件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	69.8%	算定期間	平22年 4月 1日～平成23年 3月31日
算出根拠	A：紹介患者の数		15,366 人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		9,178 人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		7,104 人
	D：初診の患者の数		36,160 人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式第 13-2)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有
・ 指針の主な内容： 医療安全管理に関する基本的考え方、医療に係る安全管理の組織に関する基本的事項、 医療安全管理のための職員研修に関する基本的事項、 事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針、 医療事故発生時の対応に関する基本方針、 当院と患者との間の情報の共有に関する基本方針、 患者からの相談への対応に関する基本方針、 その他医療安全の推進のために必要な基本方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 12 回
・ 活動の主な内容： (1) 医療安全管理の指針の見直し、医療安全管理研修の計画、事故防止対策案の策定・周知 (2) 安全管理に関する広報活動 (3) その他、院長の諮問を受けた事項	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 3 回
・ 研修の主な内容： 「内服薬の処方せんの記載方法の在り方」平成22年 6月28日 「個人情報保護と診療情報の第三者提供」平成22年 7月29日 「当院の院内感染対策について」平成22年11月10日	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有) ・ その他の改善のための方策の主な内容： (1) 医療安全集中管理システム(セーフマスター)での管理 (2) 医療安全ウェブサイト(安全オンデマンド)による情報共有 (3) 医療安全管理に関する規定(指針・ガイドライン・マニュアル)の改正・配布 (4) 医療安全管理の手引きの改正・配布 (5) リスクマネージャ会議(月1回)における事例報告・改善方策周知 (6) 院内リスクアナウンス(安全情報等)の周知確認登録(安全オンデマンド・電子カルテシステム画面を使用したポータルサイト)の導入 等	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有(2名)
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有(1名)
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有

- ・ 所属職員： 専任（ 8 ）名 兼任（ 9 ）名
- ・ 活動の主な内容：

- (1) 医療安全管理委員会の定期開催（月1回）
- (2) リスクマネージャ会議の定期開催（月1回）
- (3) 個人情報保護推進委員会の定期開催（月1回）
- (4) 医療ガス安全管理委員会の定期開催（年1回）
- (5) 平成22年度医療相互チェック（相互ラウンド）の実施
- (6) 日本医療評価機構への参画
- (7) 医療安全管理に関する規定（指針・ガイドライン・マニュアル）の改正 等

⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

有

(様式第 13-2)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1) 院内感染対策に関する基本的考え方2) 院内感染対策のための委員会その他の当該病院等の組織に関する基本事項3) 院内感染対策のための従業者に対する研修に関する基本方針4) 感染症の発生状況の報告に関する基本方針5) 院内感染発生時の対応に関する基本方針6) 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針7) その他の当該病院等における院内感染対策の推進のために必要な基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 1 2 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1) 感染対策の強化、追加、改善に関する方針・対応策の決定。2) 監視（サーベイランス）データの報告と問題点に関する分析・討議。3) 感染防止ガイドライン、マニュアル、指針の策定及び改正に関する討議、決定。4) 院内研修及び教育活動に関する実施計画の立案、討議、決定。5) 上記 1～4 に関する周知・徹底、ならびに周知・徹底方法に関する討議、決定。6) アウトブレイク等院内発生事象に関する報告及び対応方法の討議・決定。7) 感染制御部、感染制御チームに対する助言、支援。	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 4 回 他
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1) 新人職員（全職種）研修（講義および演習）2) 院内感染対策講演会（全職員を対象として）<ul style="list-style-type: none">・ H22/9/13：「HIVの現状と治療」日本医大免疫微生物学教授/高橋秀実・ H22/10/1～29：「手洗いと手指消毒の演習」感染制御室主催/（16回実施）・ H22/11/10：「当院の院内感染対策について」 （感染制御室員による講義：医師、看護師、薬剤師、検査技師）・ H23/1/31：「結核院内感染対策」結核予防会複十字病院/吉山崇先生3) 部門・職種別研修<ul style="list-style-type: none">・ 中途採用者、清掃委託業者、看護部感染管理委員、臨床工学技士、生理機能検査技師、放射線技師、集中治療室医師等	

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (㊟・無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

1) 薬剤耐性菌サーベイランスと職種情報共有のための報告・周知システム

- ・ 速報 FAX と当該部署から内容確認後の返信システム
- ・ 電子カルテ病棟マップのベッドボードへの色分け表示
- ・ 病室前の必要な个人防护具を示す、感染対策掲示の貼付

2) バンコマイシン耐性腸球菌・薬剤耐性アシネトバクターバウマニを対象とした、積極的保菌状況監視検査 (Active Surveillance Test : AST) の実施。

3) 感染対策チェックリストの改訂と各部署自己チェックに基づく感染制御チームラウンド。

4) 職員の手指消毒剤の携帯。

(様式第 13-2)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
・ 研修の主な内容： 1) 「医薬品の安全管理」 平成22年4月 2) 「内服薬処方せんに記載方法の在り方について」 平成22年6月	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 (有) ・ 業務の主な内容： 医薬品の安全使用のための業務チェックリストにて年2回確認を行っている。 (別紙)	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1) 添付文書については改定毎にMRより入手するか、医薬品医療機器総合機構ホームページよりダウンロードして対応する。 2) 緊急安全性情報などは、薬剤部ニュース及び病棟担当薬剤師より主治医へ情報提供される。 3) 医薬品情報(毎月発行)に関連情報を記載し配布している。	

医薬品の安全使用のための業務チェックリスト

2010年4月改訂

2011年4月改訂

記入者名

実施年月日 年 月 日

設定 2008. 4

改訂 2010. 3

【概要】

1.0 基本事項

- 患者の個人情報を守秘する対策等が図られている
- 時間外の調剤への対応がととのっている
- 院内の理念、基本方針を遵守している
- 決定事項等を迅速に薬剤部職員に周知徹底している
- 各部署の業務内容を定期的に調査し、見直している
- 採用医薬品を薬剤部で一元管理している
- 医薬品マスターの管理に関与している
- 病棟に担当薬剤師を配置している

1.1 保有している設備とその保全

- 地震、防火等の対策が整備されている
- かぎのかかる貯蔵設備を有している
- 冷暗貯蔵のための設備を有している
- 調剤室等室の明るさが十分に確保されている
- 各機器、設備は定期に保守点検が行われ、その結果が記録されている
- 薬剤部でインターネットが利用できる
- 集塵装置、局所排気等の職員の健康に関する設備が整備されている。
- 散剤分割分包機を有している
- 薬剤部専用のFaxを有している
- 薬剤部専用のパソコンを有している
- 自動薬袋作成機を有している
- 自動錠剤分包機を有している
- 薬剤部専用のシュレッダーを有している
- 薬剤部専用の複写機を有している
- 薬剤情報提供用のカラー印刷機を有している
- 換気が十分であり、かつ室内を常に清潔に保っている

1.2 コンピュータシステムの導入

- 散剤鑑査システムを導入している
- 錠剤鑑別、文献検索等のシステムを導入している
- 液剤鑑査システムを導入している

1.3 教育・研修

- 薬剤部で勉強会等を定期に開催している
- 電話での適正な疑義照金の仕方について指導している
- 院内外の学会、研修会等への出張が認められている
- 定期購読等図書購入費が認められている
- 日本医療薬学会等の「認定薬剤師」、「研修施設の認定」の取得を支援している
- (財)日本薬剤師研修センターの「研修認定薬剤師」の取得を支援している
- 各自研究テーマを持ち、積極的に取り組んでいる

1.4 勤務体制

- 平日宿直している
- 祝日、土曜日、日曜日宿直している
- 祝日、土曜日、日曜日直している

1.5 診療報酬が認められている業務

- 調剤
- 外来患者への薬剤情報提供

1.6 作成している業務マニュアル

- 調剤過誤防止マニュアル
- 麻薬及び向精神薬取り扱いマニュアル
- 特定生物由来製品の管理マニュアル

1.7 院内各種委員会への参画

- 薬事委員会
- 院内感染防止対策委員会
- リスクマネジメント専門部会
- 褥瘡対策チームへの参画(診療報酬が認められている業務)

1.8 地域薬剤師会との連携

- 院外処方せんを発行している
- 院外薬局からの疑義照会の対応の仕方が確立している
- 地域薬剤師会との緊急連絡の対応の仕方が確立している
- 病院と地域薬剤師会との連絡協議会を設置(定期開催)している
- 「おくすり手帳」等を活用している
- 薬局薬剤師の病院実習を受け入れている

1.9 医療廃棄物処理

- 一般廃棄物、感染廃棄物、医療廃棄物を分別し廃棄している
- 患者情報が記載された「もの」について適切に廃棄している
- 有効期限切れ、使用残薬剤、投与中止、処方変更による未使用の薬剤を薬剤部(科)で処理している

【医薬品の採用】

2.0 採用医薬品の選定

- 薬事委員会に参画している
- 名称、外観類似の回避等使用安全確保の観点から評価している

2.1 医薬品情報の収集

- 添付文書等を収集している
- 新規採用医薬品のヒヤリングをしている
- 副作用の初期症状についての情報を収集している

2.2 医薬品情報の解析と評価

- 医薬品の安定性や製剤特性等について検討している
- 患者へ提供すべき医薬品情報について検討している
- 類似名称、外観類似等医療事故の誘発因子になる可能性の有無について検討している
- 保管上の問題点について検討している

3.0 麻薬

- 「麻薬譲渡証」を2年間保存している
- 麻薬譲渡証の商品名、数量、製造番号と現品とを照合している
- 麻薬譲渡証の記載事項及び押印等を確認している
- 麻薬の外箱に証紙による封緘を確認している
- 麻薬(規格単位)毎に購入量、製造番号(ロット番号)、購入年月日、卸業者の名称を麻薬管理簿に記録している

3.1 在庫管理

- デッドストックを防止している
- 定期的に棚卸しを実施している
- 先入れ・先出しの原則を徹底している
- 災害時に必要な医薬品をリストアップし、一定の在庫量を確保している。
- 添付文書に記載されている貯法を遵守し、24時間空調等対策が施されている
- 医薬品管理室、医薬品庫及び調剤室、冷蔵庫等の温度をモニターしている
- 期限切れが間近な未使用医薬品を可能な限り返品処理又は有効利用している
- 破損処理を適切にしている
- 盗難、紛失を防ぐための対策が施されている

3.1.1 麻薬

- 金庫は周囲の状況から見て安全な鍵のかかる部屋に設置している
- 麻薬保管庫は麻薬専用とし、他の医薬品や書類等を一緒に入れていない
- 麻薬保管庫は、出し入れのとき以外は必ず施錠している
- 受払管理簿の残数と現在庫数を毎日照合している
- 薬剤毎に受領年月日、施用又は交付年月日、受払数量、払出先、現在庫数、患者氏名(ID番号)を麻薬管理簿に記載している
- 所有している麻薬を廃棄するときは、「麻薬廃棄届出書」を知事あてに提出している
- 麻薬の廃棄は、麻薬監視員立ち会いの上廃棄し、管理簿に記録している

- 薬剤返還理由書と不要になった麻薬を受け取り、廃棄簿又は麻薬管理簿に記載し、第三者立ち会いの上粉碎等し、廃棄している
- 鍵は関係者のみ周知の場所に保管している

3.1.2 覚せい剤原料

- 金庫等施錠可能な保管庫に保管している
- 所有している覚せい剤原料を廃棄するときは、「覚せい剤原料廃棄届出書」を知事あてに提出している
- 覚せい剤原料の廃棄は、覚せい剤監視員立ち会いの上廃棄し、管理簿に記載している
- 薬剤(第1種、第2種)毎に受払年月日、受払数量、払出先、患者氏名、現在庫数、受払者氏名をノート等に記載している

3.1.3 向精神薬

- 金庫等施錠可能な保管庫に保管している
- 薬剤(第1種、第2種)毎に受払年月日、受払数量、払出先、患者氏名、現在庫数、受払者氏名をノート等に記載している
- 不要になった向精神薬を受け取り、第三者立ち会いの上粉碎等し廃棄している
- 廃棄した向精神薬の品名、数量及び年月日を記録し、その記録を保管している

3.1.4 毒薬

- 法規に基づいて適切に表示し保管している
- 鍵のかかる場所に施錠し保管している

3.1.5 劇薬

- 法規に基づいて適切に表示し保管している

3.1.6 特定生物由来製品

- 添付文書に基づいて適切に保管している

3.2 供給管理

- 医薬品の品質を確認し供給している
- 原則、注射剤も含め処方せんにより交付している
- 各診療科の特徴を考慮し、定数配置薬の供給方法(セット交換方式又は補充方式)を決めている
- 各診療科の使用量、使用頻度等を考慮し、定数配置薬の種類とその在庫数を決めている
- 麻薬、覚せい剤原料、向精神薬、毒薬、特定生物由来製品は必要最小量を処方するように指導している

3.3 処置薬

- 定期に有効期限、使用期間をチェックしている

3.4 患者持参薬の管理

- 持参薬について薬剤師が鑑別し、その情報を医師等に提供している
- 持参薬が採用医薬品でないときは、同一成分又は同効薬等についての情報を提供している
- 持参薬への対応の仕方が確立している

【調剤】

4.0 処方せんの受付・点検

- リスクの高い薬剤(糖尿病治療薬、抗てんかん薬、抗悪性腫瘍剤、強心薬、抗不整脈薬、ワーファリン等)がはじめて処方されたときは、患者情報等で確認している

4.1 患者情報に基づいた処方せんの解析評価(内用・外用剤)

- 用法・用量、投与日数等が添付文書から逸脱していないかどうかチェックしている
- 患者氏名、年齢、現疾患名と処方薬及び用量を照合し、適正かどうか解析している
- 重複投与、投与禁忌、相互作用等の有無をチェックしている
- 投与期間が適切かどうかチェックしている
- 処方薬の安定性、配合変化等について解析している

4.2 疑義照会

- 疑義照会に関する手順書を作成している
- 疑義内容を簡潔に要領よくまとめてから処方医に照会している
- 処方医に疑義照会の意図を正確に伝え、理解を得、納得した上で処方訂正している
- 訂正及び変更内容を処方せんの備考欄等に記載している
- 必要により訂正及び変更内容を看護師に連絡している
- 疑義照会経過(日時、薬剤師・医師氏名、疑義内容、変更・訂正の内容等)を記録している(薬歴簿等)

4.3 薬袋又はラベルの作成(内用剤・外用剤)

- 処方毎に処方薬の量及び剤型に応じた薬袋、容器、ラベル等を選択している

- 調剤年月日、患者氏名、診療科名、投与開始日、用法・用量等記載している
- 薬剤師の氏名、調剤済、調剤年月日を記載している
- 冷所、遮光等の保存方法を記載している
- 「必ず水に溶かして服用」、「多くの水で服用」等の服用時の注意事項を記載している
- 与薬スケジュール表の貼付等の工夫をしている

4.4 計数調剤(内用剤・外用剤)

- 処方せんと薬袋等を照合している
- 処方せん1使用単位毎に処方薬を薬袋又はケース等に取り揃えている
- 遮光対策を施している

4.5 計量調剤(内用剤・外用剤)

- 散剤を秤量する計量器のゼロ点の調整、水平確認等の確認を毎日実施している
- 処方せんと薬袋等の患者氏名を照合している
- 賦形剤を添加するルールを定め、添加したときは処方せんに種類と量を記録している
- 倍散、倍液、原末、製剤量等、処方せんに記載されている用量を確認している
- 錠剤やカプセル剤のつぶした数量を処方せんに記録している
- 粉碎した錠剤等はふるいをかけ他の散剤と混合している
- 乳鉢、乳棒、分包機等に付着した薬剤との相互汚染に注意している
- 配合変化表を掲示している

4.6 調剤済薬剤の鑑査(内用剤・外用剤)

- 二重鑑査を実施している
- 処方せんの記載事項と薬袋、ラベル等への記載事項を照合している
- 処方せんに記載されている薬剤名と調剤済薬剤とを照合している
- 薬袋等の種類と数をチェックしている
- 分包されている散剤の色や形状等をチェックしている
- 分包された散剤に異物等が混入していないかチェックしている
- 散剤が均一に分包されているかチェックしている
- 処方変更、疑義照会の回答等が処方せんに記載されているかチェックしている
- チェックしたエラーについて、その内容をメモしている

4.7 調剤済薬剤の交付(内用剤・外用剤)

- 薬袋への記載内容及び文字等の工夫をしている
- 便や尿の色が変わる等生理的变化について記載した文書(パンフレット等)を添付している
- 口腔剤、舌下錠、点鼻剤、点眼剤、坐剤、吸入剤等の用法についてわかりやすく記載した文書(パンフレット等)を添付している

4.8 調剤過誤防止対策

- 散薬瓶や調剤棚等に貼付するラベルは、判別しやすい文字を用いている
- 冷所に保管する薬袋及びラベルには〇冷等の印をつけている
- 糖尿病治療薬、向精神薬が処方されている薬袋、ラベル等に〇向、〇糖等の印をつけている
- 散薬瓶等に貼付するラベルには医薬品名の他に規格や常用量等を表示している
- 名称、外観等類似している医薬品は隣接して配列することを避ける等の工夫をしている
- 散薬瓶、自動錠剤包装機等への充填は、複数人でラベルを確認し、充填記録帳等に充填年月日、医薬品名、実施者氏名を記載している
- 散薬瓶の充填機会を少なくするために小包装単位を購入し、可能な限りそのまま使用している
- 散薬瓶が空になってから充填している
- 散剤鑑査システムで出力されたプリントを処方せんに貼付している(導入している場合)
- 液剤鑑査システムで出力されたプリントを処方せんに貼付している(導入している場合)
- 錠剤やカプセル剤粉碎したときは、外した錠剤等のシート、混合した軟膏等のチューブ等を薬袋に添付している
- 混合不適薬剤一覧を掲示している
- 賦形剤の添加等調剤について、調剤指針を遵守している
- 各室の整理整頓を励行している
- 調剤機器を定期的に保守点検している
- 添付文書の注意事項の変更等について周知徹底している
- 調製後自己鑑査の実施を周知徹底している
- 調製した薬剤師と鑑査する薬剤師を異にしている(二重鑑査)
- 鑑査時に発見されたエラーについて記録している
- 鑑査時に発見されたエラーについて部員で情報を共有している(朝礼時等)
- 鑑査時に発見されたエラーについて定期的に分析を行い、対策を講じている
- 鑑査時に発見された誤って調剤された医薬品は一旦別に保管し、業務終了時等に調剤棚に戻している
- 医療事故や調剤過誤の症例報告を義務付けている
- 医療事故や調剤過誤等の原因について解析し、その防止対策を協議している

医療事故や調剤過誤が起きたときの迅速な対応について周知徹底している

5.0 院内感染対策

- 薬剤師がICTの一員として活躍している。
- 適切な消毒薬を選択している
- 開封後の消毒液を適正に管理している
- 薬剤部(科)から抗菌薬、消毒薬等の使用に関する情報を提供している
- 院内における抗菌薬使用の指針や基準が定められている
- 院内検出菌の推移、抗菌薬感受性の推移等定期的に調査している
- 抗菌薬の使用状況調査を実施している
- MRSA 感染症治療薬の使用状況を把握している

【教育】

6.0 卒前実習

- 卒前実習生を受け入れている
- 卒前実習のカリキュラムを作成している
- 実習生の評価をしている
- 実習テキストを作成している

17.0 卒後研修

- 卒後研修生を受け入れている
- 卒後研修のカリキュラムを作成している
- 研修生の評価をしている
- 実習テキストを作成している

* 業務チェックは年2回(3月・9月)の医薬品の品質管理時に実施する

備考欄	医薬品安全管理 責任者印

—医薬品の安全使用のための業務チェックリスト(注射薬品補給室)—

記入者名

実施年月日 年 月 日

設定 2008. 4

改訂 2010. 3

【概要】

1.0 基本事項

時間外の調剤への対応がととのっている

1.1 保有している設備とその保全

- かぎのかかる貯蔵設備を有している
- 冷暗貯蔵のための設備を有している
- 調剤室等室の明るさが十分に確保されている
- 薬剤部でインターネットが利用できる
- 薬剤部専用のFaxを有している
- 薬剤部専用のパソコンを有している
- 薬剤部専用のシュレッダーを有している
- 薬剤部専用の複写機を有している
- クリーンルームを有している
- クリーンベンチを有している
- クリーンベンチの浮遊塵及び細菌を定期検査している
- 安全キャビネットを有している
- 安全キャビネットの浮遊塵及び細菌を定期検査している

1.2 教育・研修

- 電話での適正な疑義照会の仕方について指導している
- 院内外の学会、研修会等への出張が認められている
- 日本医療薬学会等の「認定薬剤師」、「研修施設の認定」の取得を支援している

1.3 勤務体制

- 平日宿直している
- 祝日、土曜日、日曜日宿直している
- 祝日、土曜日、日曜日直している

1.4 診療報酬が認められている業務

- 高カロリー輸液の無菌調製
- 抗悪性腫瘍剤の無菌調製

1.5 作成している業務マニュアル

- 薬品管理マニュアル
- 注射薬品補給室マニュアル
- 輸液調製マニュアル
- 抗悪性腫瘍剤調製マニュアル

1.6 院内各種委員会への参画

- 薬事委員会
- リスクマネジメント専門部会
- 医療ガス安全管理委員会
- 情報処理委員会

【医薬品管理】

2.0 購入管理

- 採用医薬品の使用量から発注量を決めている
- 発注書と納品を照合している
- 納品の商品名、剤形、数量、規格単位、包装単位、製造番号を確認している
- 納品の製造年月日と使用期限を確認している
- 納品の破損の有無、外観を検査している
- JGSPを実践している医薬品卸業者との間で購入契約を結んでいる

2.0.1 向精神薬(第1種及び第2種)

- 薬剤(規格単位)毎に購入量、購入(返品)年月日、在庫量、購入者氏名を小伝票等に記載している
- 納品書を保管している

2.0.2 毒薬

- 薬剤(規格単位)毎に購入量、購入(返品)年月日、在庫量、購入者氏名を小伝票等に記載している
- 納品書を保管している

2.0.3 特定生物由来製品

- 製剤毎に規格単位、製造番号(ロット番号)、購入量、購入年月日を小伝票等に記載している
- 納品書を保管している

2.1 在庫管理

- 医薬品が適切に配置及び表示されているかチェックしている
- 普通薬、劇薬、毒薬、向精神薬、麻薬、覚せい剤原料、特定生物由来製品に分類し保管している
- 錠剤、散剤、液剤、外用剤、注射剤等の剤型毎に分類し保管している
- デッドストックを防止している
- 定期的に棚卸しを実施している
- 先入れ・先出しの原則を徹底している
- 添付文書に記載されている貯法を遵守し、24時間空調等対策が施されている
- 期限切れが間近な未使用医薬品を可能な限り返品処理又は有効利用している
- 医薬品の在庫配置図等を作成している
- 破損処理を適切にしている
- 盗難、紛失を防ぐための対策が施されている

2.1.1 向精神薬

- 金庫等施錠可能な保管庫に保管している
- 薬剤(第1種、第2種)毎に受払年月日、受払数量、実施年月日、払出先、患者氏名、現在庫数、受払者氏名を管理表に記載している
- 廃棄・返品した向精神薬の品名、数量及び年月日を記録し、その記録を保管している

2.1.2 毒薬

- 法規に基づいて適切に表示し保管している
- 鍵のかかる場所に施錠し保管している
- 冷所保存品は施錠可能な保冷库等に保管している
- 筋弛緩薬は薬剤(第1種、第2種)毎に受払年月日、受払数量、実施年月日、払出先、患者氏名、現在庫数、受払者氏名を管理表に記載している

2.1.3 劇薬

- 法規に基づいて適切に表示し保管している

2.1.4 特定生物由来製品

- 添付文書に基づいて適切に保管している
- 薬剤毎に受払年月日、ロット番号、払出先、患者氏名、実施年月日、払出数量、受払者氏名を管理表に記載している

2.2 供給管理

- 医薬品の品質を確認し供給している
- 原則、注射剤も含め処方せんにより交付している
- 各診療科の特徴を考慮し、薬剤の供給方法(定数配置等)を決めている
- 各診療科の特徴を考慮し、定数配置薬の供給方法(セット交換方式又は補充方式)を決めている
- 各診療科の使用量、使用頻度等を考慮し、定数配置薬の種類とその在庫数を決めている
- 麻薬、覚せい剤原料、向精神薬、毒薬、特定生物由来製品は必要最小量を処方するように指導している
- 抗悪性腫瘍剤、覚せい剤原料は各診療科(部)に定数配置していない

2.3 使用管理

- 麻薬、覚せい剤原料、向精神薬(第1種、2種)、毒薬について、誰が、何を、いつ、誰に、どのくらい使用したか、麻薬施用票、診療科の帳票(管理簿等)を毎日確認している
- 施錠の有無を確認している
- 患者の氏名(ID番号)、住所、使用した特定生物由来製品の名称、製造番号(ロット番号)、数量、使用年月日を使用管理簿に記載している
- 特定生物由来製品の名称と製造番号(ロット番号)から使用した患者の氏名(ID番号)及び使用年月日が検索できるシステムを構築している
- 特定生物由来製品の使用管理簿を20年間保管している
- 記録の保存を電子媒体でするときには、常に紙媒体で確認できるようにしている
- 盗難、紛失、破損等の事故発生状況の報告をお願いしている

2.3.1 処置薬

- 定期に有効期限、使用期間をチェックしている

2.3.2 救急薬

- 救急薬の種類及びその数量等について各診療科と協議し、決めている
- 定期に有効期限又は使用期間をチェックしている

【調剤】

3.0 患者情報に基づいた処方せんの解析評価(注射剤)

- 投与回数、投与方法、投与経路、投与速度、投与時間等が添付文書から逸脱しているかどうかチェックしている
- 患者氏名、年齢、体重等の患者情報と処方薬及び用量を照合し、適正かどうか解析している
- 投与期間が適切かどうかチェックしている
- 注射剤混合後の安定性及び配合変化をチェックしている

3.1 疑義照会

- 処方医に疑義照会の意図を正確に伝え、理解を得、納得した上で処方訂正している
- 訂正及び変更内容を処方せんの備考欄等に記載している
- 必要により訂正及び変更内容を看護師に連絡している
- 疑義照会経過(日時、薬剤師・医師氏名、疑義内容、変更・訂正の内容等)を記録している(薬歴簿等)

3.2 計数調剤(注射剤)

- 処方せん1使用単位毎に、必要な注射剤をトレイや薬袋等に取り揃えている
- 遮光袋等の添付品をつける等遮光対策を施している
- 管理表を用いてダブルチェックしている医薬品は抗悪性腫瘍剤、ジゴシン、投与間隔が定められた医薬品、名称が似ている医薬品をしている

3.3 無菌調製(注射剤)

- 配合変化表を作成し、確認している
- 無菌室(クリーンルーム、クリーンベンチ等)で注射剤を混合調製している
- クリーンベンチ内に消毒用アルコールを噴霧し消毒している
- 注射器、フィルター等の使用器材を無菌室内に配置している
- 混合する注射剤をトレイ等に入れ消毒用アルコール等で消毒し無菌室に搬入している
- 手指を洗浄しマスク、帽子、専用衣を着用して混合調製している
- 処方せんとラベルの患者氏名及び取り揃えた注射剤を照合している
- 処方せんの1使用単位毎に必要な薬剤を計量し、混合調製している(抗悪性腫瘍剤、高カロリー輸液の注射剤含む)
- ゴム穿刺部位を消毒し、専用キャップあるいは滅菌シールを貼付している
- 処方せん1使用単位毎にラベルを添付している
- 混合した実施者氏名、年月日、件数等業務内容を記録している
- 使用済み注射針、連結管、アンプル等を専用容器に入れ医療廃棄物として廃棄している
- 定期的に無菌室の落下菌、浮遊塵量を検査している

3.3.1 無菌調製済薬剤の鑑査(注射剤)

- 二重鑑査を実施している
- 処方とラベルを再度照合し、患者氏名、処方薬、用量、投与方法、投与時間、投与速度等をチェックしている
- 使用済み空アンプル等の残量をチェックしている
- 色調、析出物、異物、液漏れ等をチェックしている

3.3.2 調剤過誤防止対策(注射剤)

- 用量単位がmg,mEq等からmLへの換算が複雑な場合には、溶液量を記載している
- 麻薬、インシュリン製剤、混合後不安定な薬剤等の混合しない薬剤について、その旨を処方せん(病棟控え)に記載している
- セットする注射剤の用量が1本の整数倍でない場合は、用量にアンダーライン等の印を付けている
- 無菌室等の整理整頓を励行している
- 調製後自己鑑査の実施を周知徹底している

*業務チェックは年2回(3月・9月)の医薬品の品質管理時に実施する

備考欄	医薬品安全管理
	責任者印

-医薬品の安全使用のための業務チェックリスト(薬品情報室)-

記入者名

実施年月日 年 月 日

設定 2008. 7

改訂 2011. 4

【概要】

1.0 基本事項

- 患者の個人情報を守秘する対策等が図られている
- 薬剤師配置基準を満たしている
- 採用医薬品を薬剤部で一元管理している
- 医薬品マスターの管理に関与している

1.1 保有している設備とその保全

- 専用の医薬品情報室を設置している
- 薬剤部でインターネットが利用できる
- 薬剤部専用のFaxを有している
- 薬剤部専用のパソコンを有している
- 薬剤部専用のシュレッダーを有している
- 薬剤部専用の複写機を有している
- 薬剤情報提供用のカラー印刷機を有している

1.2 コンピュータシステムの導入

- 錠剤鑑別、文献検索等のシステムを導入している
- 診療支援システムが利用できる

1.3 教育・研修

- 薬剤部で勉強会等を定期に開催している
- 院内外の学会、研修会等への出張が認められている
- 各自研究テーマを持ち、積極的に取り組んでいる

1.4 診療報酬が認められている業務

- 褥瘡対策チームへの参画

1.5 作成している業務マニュアル

- 入院患者の持参薬取り扱いマニュアル

1.6 院内各種委員会への参画

- 薬事委員会
- 医療保険委員会
- 臨床検査委員会
- 褥瘡委員会

1.7 地域薬剤師会との連携

- 地域薬剤師会との緊急連絡の対応の仕方が確立している
- 採用医薬品の一覧を公開している
- 病院と地域薬剤師会との連絡協議会を設置(定期開催)している

【医薬品の採用】

2.0 採用医薬品の選定

- 薬事委員会で審議し、採用医薬品を決定している
- 名称、外観類似の回避等使用安全確保の観点から評価している
- 採用医薬品の品目数の上限を設定している(一増一減の厳守)
- 採用医薬品以外で院外処方する医薬品についても薬事委員会で審議している

2.1 新規採用医薬品の申請

- 医師の「新規採用医薬品申請書」等を薬事委員会事務局(薬剤部(科))で受け付けている
- 申請された医薬品の適切な情報を収集している
- 薬価算定の評価(類似薬等)を参考にしている
- 収集した医薬品情報を適切に解析している
- 薬事委員会等を定期(臨時有)に開催している

2.2 医薬品情報の収集

- 添付文書、インタビューフォーム、製品概要等を収集している
- 新規採用医薬品のヒアリングをしている
- 医薬品安全性情報等安全性に関する医薬品情報を収集している
- 同種同効薬の年間使用量を調査している
- 臨床試験、非臨床試験のデータを収集している
- 副作用の初期症状についての情報を収集している
- 同種同効薬について必要な医薬品情報を収集している
- 市販される新薬の動向を調査している
- 学術雑誌、学会誌等からも医薬品情報を収集している
- 新聞、雑誌、書籍等からも医薬品情報を収集している

2.3 医薬品情報の解析と評価

- 臨床試験データに基づいて有効性を検討している
- 有用性について同種同効薬と比較検討している
- 医薬品の安定性や製剤特性等について検討している
- 過量投与等による急性中毒(重篤な副作用の発現の有無)について検討している
- 高齢者、小児、妊産婦等への使用上注意すべき点について検討している
- 患者へ提供すべき医薬品情報について検討している
- 類似名称、外観類似等医療事故の誘発因子になる可能性の有無について検討している
- 保管上の問題点について検討している
- 院内の採用削除薬の代替、同種同効薬等について検討している
- 添加剤、溶解剤等製剤的物性について検討している
- 薬物動態学及び薬力学の視点から有効性、安全性について検討している
- 腎機能、肝機能への影響について検討している
- 非臨床データ(毒性、有害事象等)について検討している
- モニターすべき副作用の初期症状及び臨床検査値を検討している
- 作用機序等から副作用を予測している
- 包括支払い方式の導入に伴う経済的(収益性)有用性について検討している

2.4 薬事委員会

- 委員会の事務局を薬剤部(科)に置いている
- 委員会で使用する適切な資料を薬剤部(科)で準備している
- 委員会に提出された資料を薬剤師が説明している
- 採用可否について薬剤師としての意見を明確に述べている
- 資料に基づき医薬品の採否を審議している
- 審議内容が把握できる議事録を作成している
- 審議結果を各診療科に通知している
- 適宜、採用医薬品を見直している
- リスクの高い医薬品の適正な使用基準を決めている

2.5 採用医薬品の見直し

- 削除医薬品の過去1年間の使用量を調査している
- 使用量に合わせて包装単位を見直している
- オープンドラッグ、緊急処置薬、特殊薬剤を一覧表にしている

2.6 新規及び削除採用医薬品の事務手続き及び広報

- レセプト等事務手続きのために必要な情報を提供している
- 医薬品管理マスターに登録している
- 院内及び地域薬剤師会に文書等で連絡している

3.0 患者持参薬の管理

- 持参薬について薬剤師が鑑別し、その情報を医師等に提供している
- 持参薬が採用医薬品でないときは、同一成分又は同効薬等についての情報を提供している
- 持参薬への対応の仕方が確立している

3.1 医薬品管理諸統計帳票

- 医薬品別使用患者数

【安全管理】

4.0 医薬品情報

- 医薬品情報の収集・整理・保管管理及び情報の加工と専門的評価をしている
- 院内情報誌、医薬品集、印刷物(パンフレット)等を通じて情報提供を積極的にしている
- 医療従事者からの質疑に対する情報を収集し応答している
- 質疑応答の内容を記録している
- 必要に応じ質疑応答の関連文献を収集解析し雑誌等に報告している
- 副作用情報を的確に収集している

- 医薬品緊急安全性情報、医薬品等安全性情報を医師等へ迅速に文書により伝達している
- 常時、医薬品に関する問い合わせに対応している
- 医薬品、家庭用品及び農業等の中毒情報を収集、整理し、活用している
- 院内医薬品集を作成し、必要に応じ改定し、追補を発行している
- 新規採用医薬品の情報を速やかに提供している
- 院内で収集した副作用を検討し、必要により厚労省へ報告している

5.0 医療機関からの副作用等の報告

- 下記の事例の様な医薬品の使用による事象が起きたときには厚生労働省に報告している
 - 死亡、障害、治療のための入院又は延長が起きたとき
 - 使用対象者の子に先天異常が認められたとき
 - 添付文書に記載されていない事象が起きたとき など

* 業務チェックは年2回(3月・9月)の医薬品の品質管理時に実施する

備考欄	医薬品安全管理 責任者印

一医薬品の安全使用のための業務チェックリスト(製剤室)一

記入者名

実施年月日 年 月 日

設定 2008. 4

改訂 2010. 3

1.0 保有している設備とその保全

- かぎのかかる貯蔵設備を有している
- 冷暗貯蔵のための設備を有している
- 製剤室の明るさが十分に確保されている
- 各機器、設備は定期的に保守点検が行われ、その結果が記録されている
- 薬剤部でインターネットが利用できる
- オートクレーブを有している
- 感熱滅菌器を有している

2.0 作成している業務マニュアル

- 院内製剤調製マニュアル

3.0 劇薬

- 法規に基づいて適切に表示し保管している

3.1 在庫管理

- デッドストックを防止している
- 定期的に棚卸しを実施している
- 先入れ・先出しの原則を徹底している
- 医薬品庫及び冷蔵庫等の温度をモニターしている

3.2 供給管理

- 医薬品の品質を確認し供給している
- 注射剤も含め、必要に応じ処方せんにより交付している

【院内製剤】

4.0 特殊製剤の調製

- 医師からの依頼を受け、薬剤部(科)での製剤が可能かどうか検討している
- 院内の倫理委員会(院内製剤検討委員会等)で審議している
- 製剤の有用性及び安全性についての情報(文献等)を収集している
- 期待される有用性と考え得る危険性について処方医と協議している
- 患者使用への経費負担等について十分検討している
- 製剤の安定性等を考慮した処方設計について検討している
- 汚染及び品質劣化を防止するための滅菌装置やクリーンルーム等の設備が整っている
- 品質試験を行い、品質の保証に努めている(異物混入の有無、pH試験等)
- 通常の調剤済薬剤と同様に、薬袋やラベルに適切な内容を表示して患者に交付している
- 製剤調製記録及び製剤上問題点等を記録している

* 業務チェックは年2回(3月・9月)の医薬品の品質管理時に実施する

備考欄	医薬品安全管理 責任者印

— 医薬品の安全使用のための業務チェックリスト(外来用) —

実施年月日

年 月 日

臓器別診療科:

記入者名:

／ 薬剤師名

- デッドストックを防止している
- 先入れ・先出しの原則を徹底している
- 破損処理を適切にしている
- 盗難、紛失を防ぐための対策が施されている

1.1 向精神薬・毒薬・劇薬

- 該当なし
- 金庫等施錠可能な保管庫に保管している

1.2 麻薬

- 該当なし
- 施錠されている
- 鍵は決められた場所に保管されている(スペアキーも含む)
- 責任者により定期的に鍵の保管状況の確認が行われている

1.3 特定生物由来製品

- 該当なし
- 添付文書に基づいて適切に保管している
- 「特定生物由来製剤使用連絡票」を用いて使用記録をしている

2.0 配置薬

- 定期に有効期限、使用期間をチェックしている

* 業務チェックは年2回(3月・9月)の医薬品の品質管理時に実施する

備考欄	薬剤部 医薬品安全管理 責任者印

－医薬品の安全使用のための業務チェックリスト(病棟用)－

実施年月日
年 月 日

病棟名:	記入者名:	／ 薬剤師名
------	-------	--------

1.0 在庫管理

- デッドストックを防止している
- 先入れ・先出しの原則を徹底している
- 破損処理を適切にしている
- 盗難、紛失を防ぐための対策が施されている

1.1 向精神薬・毒薬・劇薬

- 該当なし
- 鍵は関係者のみ周知の場所に保管している

1.2 麻薬

- 該当なし
- 施錠されている
- 鍵は決められた場所に保管されている(スペアキーも含む)
- 責任者により定期的に鍵の保管状況の確認が行われている

1.3 特定生物由来製品

- 該当なし
- 添付文書に基づいて適切に保管している
- 使用した医薬品のロット番号を処方せんに記載している

2.0 配置薬

- 定期(3月・9月)に有効期限、使用期間をチェックしている

3.0 救急薬

- 救急薬の種類及びその数量等について各診療科と協議し、決めている
- 救急カートへの医薬品の配置や表示に工夫を施している
- 救急薬の請求伝票と在庫量を照合し補充している

4.0 患者持参薬の管理

- 持参薬への対応の仕方が確立している

5.0 リスクマネジメント

- 病棟での薬剤に関するアクシデント・インシデント事例に基づき、薬剤師と今後の対応策を協議している
- 病棟での副作用事例について、薬剤との因果関係など今後の対応策等を協議している

* 業務チェックは年2回(3月・9月)の医薬品の品質管理時に実施する

備考欄	薬剤部 医薬品安全管理 責任者印
-----	------------------------

—医薬品の安全使用のための業務チェックリスト(医長用)—

実施年月日
年 月 日

臓器別診療科:

記入医師名:

1.0 医薬品の安全管理責任者

医薬品の安全管理を確保するため「医薬品安全管理責任者」が設置されているのを知っている

2.0 医薬品の採用・購入

医薬品の採用・購入に関する事項は薬事委員会で定めているのを知っている

3.0 有害事象の報告

下記の事例の様な医薬品の使用による事象が起きたときには厚生労働省に報告している
死亡、障害、治療のための入院又は延長が起きたとき
使用対象者の子に先天異常が認められたとき
添付文書に記載されていない事象が起きたとき など

4.0 医薬品情報

医薬品緊急安全性情報、医薬品等安全性情報を知っている
 薬剤部ニュース、医薬品集、印刷物(パンフレット)等の情報提供を受けている

5.0 医薬品の安全使用のための研修

医薬品の安全使用のための研修安全管理講習会を受けている

*業務チェックは年2回(3月・9月)の医薬品の品質管理時に実施する

備考欄	薬剤部 医薬品安全管理 責任者印

改訂 2010.9

－医薬品の安全使用のための業務チェックリスト(薬事委員用)－

実施年月日
年 月 日

臓器別診療科：	記入医師名：
---------	--------

- 1.0 医薬品の安全管理責任者
 医薬品の安全管理を確保するため「医薬品安全管理責任者」が設置されているのを知っている

- 2.0 医薬品の採用・購入
 医薬品の採用・購入に関する事項は薬事委員会で定めているのを知っている

- 3.0 有害事象の報告
 下記の事例の様な医薬品の使用による事象が起きたときには厚生労働省に報告している
 死亡、障害、治療のための入院又は延長が起きたとき
 使用対象者の子に先天異常が認められたとき
 添付文書に記載されていない事象が起きたとき など

- 4.0 医薬品情報
 医薬品緊急安全性情報、医薬品等安全性情報を知っている
 薬剤部ニュース、医薬品集、印刷物(パンフレット)等の情報提供を受け、知っている

- 5.0 医薬品の安全使用のための研修
 医薬品の安全使用のための研修(安全管理講習会等)を受けている

* 業務チェックは年2回(3月・9月)の医薬品の品質管理時に実施する

備考欄	薬剤部 医薬品安全管理 責任者印

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況 ・ 研修の主な内容： 1) 新しい医療機器の導入時の研修 <生体情報モニタ DS-7680W> 平成22年4月8日 <在宅用人工呼吸器 Trilogy100> 平成22年4月30日 <フィリップス REMSTAR> 平成22年6月18日、平成22年8月3日 <PiCCO2導入に向けて> 平成22年6月23日 <ASV勉強会> 平成23年2月18日 2) 主に医療機器の有用性・安全性に関する研修（特定機能病院における定期研修） <電気メス・除細動について> 平成22年4月30日 <CHDF勉強会> 平成22年5月25日 3) 主に医療機器の使用方法に関する研修（特定機能病院における定期研修） <NIPネーザル> 平成22年7月1日、平成22年7月15日 <BiPAP Synchrony2勉強会> 平成22年7月12日 <e360ニューポート> 平成22年7月15日 <Trilogy200 o2> 平成22年7月20日、平成22年7月22日 <SG vigilance> 平成22年7月22日 <人工心肺勉強会> 平成23年3月15日 4) その他必要に応じた研修 <IABP勉強会> 平成22年5月18日 <吸引勉強会> 平成22年6月17日 5) MEスタッフ知識向上研修 <オープンライブラリー勉強会> 平成22年4月13日 <エクセルフロー勉強会> 平成22年4月21日、平成22年4月22日 <スタンダードブリーション> 平成22年5月27日	年 22 回
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 計画の策定 （有） ・ 保守点検の主な内容： 1) 人工心肺装置保守点検 平成22年10月実施 2) 閉鎖式保育器保守点検 平成22年 4月実施	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 （有） ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1) 人工心肺操作の始業点検項目にイラストを入れて作り直した 2) 電気メス等の誤接続を防ぐため、本体に写真を貼り分けるようにした	